

東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会記録

平成30年8月6日(月)午後1時27分～午後2時25分(9階 903 会議室)

○出席委員(11名)

委員長	高木 克尚	副委員長	尾形 武
委員	沢井 和宏	委員	二階堂 武文
委員	鈴木 正実	委員	根本 雅昭
委員	小松 良行	委員	村山 国子
委員	小野 京子	委員	山岸 清
委員	渡辺 敏彦		

○欠席委員(なし)

○議題

- 1 オリンピック・パラリンピック教育に係る委員長報告について
- 2 意見交換会について
- 3 その他

午後1時27分 開 議

(高木克尚委員長) 皆さん、こんにちは。ただいまから東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会を開会いたします。

初めに、オリンピック・パラリンピック教育に係る委員長報告についてを議題といたします。

前回の委員会で皆さんからいただいたご意見と当局からの説明の内容を受けて、正副委員長手元で案を修正させていただきましたので、ご説明を申し上げます。

お手元に配付の報告案をごらんください。まず、1ページ目、10行目、見え消しの部分、前回当局説明でオリンピック・パラリンピック教育について説明を受けたことを追記させていただきました。あわせて、レガシープランの内容まで記載していた箇所を削除させていただきました。

続いて、3ページをごらんください。3ページ、20行目、福島市のオリンピック・パラリンピック教育について、当局説明の内容を受けて、県からの委託であること、平成30年度も9校で継続していることを追記させていただきました。あわせて、文章の構成上、こむこむ館での啓発事業については削除をさせていただきました。

同じく22行目、パラリンピアン等と、この等を追記させていただきました。

次に、4ページ、5行目です。機会とございます表現を絶好の機会と、絶好を追記いたしました。

同じく4ページ、17行目、見え消しの部分になります。本市独自のオリンピック・パラリンピック教育を実施することが重要であることを強調するために、ここに追記をいたしました。あわせて、前段の表現、文章構成を修正させていただきました。横消しの部分です。

その他、提言内容には変更は生じておりません。

ただいまの修正案に対して、皆さんからご意見をお願いしたいと思います。

どうでしょうか。追加等のご意見ございませんか。

(小松良行委員) 5ページ、4行目からの、どうもここ、開発途上国の中でも特に開発がおこなわれている後発開発途上国という言い回しなのですが、何だろうな。5ページの4行目から5行目にかけてなのですけども、何だろうな。何てしたらいいのだろうな。何か……

(高木克尚委員長) 開発途上国の後ろに、のってつきますか。の中でも。

(小松良行委員) の中でも。開発途上国の中でも特に開発がおこなわれている後発開発途上国からという、後発開発途上国というのはあるの。あるというか、そういう表現なの。開発途上国だけで一くくりではなくて、後発の開発途上国とはどういう表現なの。今さら済みません。

(高木克尚委員長) 外務省の表現上、この開発途上国の中のさらに後発開発途上国という表現が存在するのです。最もおこなわれているという意味合いになるのですけれども。

(小松良行委員) 開発途上国、中でも特に開発がおこなわれていると言っているのだから、後発開発途上国というの、これ、かぶっているような気がします。いやいや、おかしくない。何かかぶっていないってなってしまうね。前段で特に開発がおこなわれていると言っているのに、また後発開発途上国と、かぶっているということです。いや、何かちょっと気になるな。

(高木克尚委員長) では、どうでしょう。先進国のみならず、その後ずっとカットして、特に開発がおこなわれているから始まりますか。

(小松良行委員) いいのではないですか。すっきりしますよね。

(高木克尚委員長) 開発途上国、中でもを削除するというのはどうですか。

(小松良行委員) はい。中でも特に開発がおこなわれている。

(高木克尚委員長) すると、二重に表現したようには聞こえない。どうでしょう。

(小松良行委員) 一つの案だと思います。いいと思います。何となくここちょっと。重ねて、重ねて……

(高木克尚委員長) 先進国のみならず、特に開発がおこなわれている後発開発途上国からもと。

(小松良行委員) うん。最初の開発途上国は要らないのだよね。

(尾形 武委員) でも、開発途上国からも支援受けているのでしょうか。

(高木克尚委員長) からもだから、複数で。後発開発途上国等からも。

(鈴木正実委員) この最初の開発途上国のところに等を入れて、後ろを削って、途上国に後発と先発と今現在のというの何かジャンルがあって振り分けられているような気がするのだけれども、それよ

りは開発途上国等でも一くくりにしてしまったほうが早いのではないのかなど。

(村山国子委員) 何か無理無理後発の開発途上国を強調しなくてもいいような気がするのですよね。

(鈴木正実委員) 何をもって後発開発途上国、どういう国を後発国というのだからよくわからない。

(高木克尚委員長) 前回お配りした外務省の資料には載ってはいるのですけれども。

(小松良行委員) 済みません。前回指摘すればよかったです。済みません。今読み返したら、何かくどいような、余りにも。

(高木克尚委員長) 後発の開発途上国という位置づけが一般的に知らされていないということからすれば、逆に開発途上国というくくりにしたほうがわかりやすいというご意見ですか。

(小松良行委員) はい、むしろなくても。中でも以降の言葉は要らないかも。

(鈴木正実委員) 多分その次の深刻な貧困にというところを後づけというか、裏打ちするために使っている言葉なのだと思うのですけれども、ただそこまで深刻なというのも要らないような気がするのですけれども。

(高木克尚委員長) 深刻でない開発途上国もあるということは一々説明しなくてもいいと。では、ご提案ですが、4行目、読ませていただきます。そのためには、国内のさまざまな支援に加え、先進国のみならず、開発途上国からもと。

(小松良行委員) それでいい。それで十分だ。

(鈴木正実委員) それが一番いい。

(高木克尚委員長) では、開発途上国、からずっと後発までを削除ということで。

(小松良行委員) 私は以上です。

(高木克尚委員長) ほかにございませんか。根本委員、よろしいですか。一番大切な、重要なところを指摘いただけるので、いつも。

(根本雅昭委員) ちなみに、今の部分というのは深刻な貧困というのは残るということ、確認なのですけれども。

(高木克尚委員長) はい。

(根本雅昭委員) そうすると、開発途上国が全て深刻な貧困に直面しているようにも何か読み取れるかなと思ひまして。

(高木克尚委員長) いや、そこは今説明した。

(根本雅昭委員) 先進国のみならず、開発途上国からも。例えば開発途上国からもご支援いただき、中には深刻な貧困に直面している国からも支援していただいたとか何か、開発途上国イコール深刻な貧困ではないかなというのがちょっと引っかかるのですけれども。

(高木克尚委員長) では、深刻な貧困の前に、中にはと。

(根本雅昭委員) そうですね。中には。

(高木克尚委員長) その前は、つなぎとして大丈夫ですか。開発途上国からも、中には深刻なと続け

て大丈夫かな。

(根本雅昭委員) 中にはが自然だと。あとは、からも、また中にはとかですかね。

(高木克尚委員長) そうすると、先進国のみならず、開発途上国の中にはですか。開発途上国の中には深刻な貧困に云々と。先進国のみならず、開発途上国の中には深刻な貧困に直面しているにもかかわらず。

(渡辺敏彦委員) 開発途上国でちょんで切ってしまったほうがいいのではないの、これ。1回切ってしまうって。

(根本雅昭委員) 開発途上国で1回切ったほうがいいよな。

(渡辺敏彦委員) 切ったほうがいいよな。

(根本雅昭委員) はい。そうすると、開発途上国の貧困に直面していないところがちょっと抜けてしまうのですね。からもまで切って、中には深刻な貧困にだったらうまくつながりますか。先進国のみならず、開発途上国、中には深刻な貧困に直面しているにもかかわらず国を挙げて。

(高木克尚委員長) 動詞と名詞が並列しても大丈夫ですか。

(根本雅昭委員) もしくは先進国、開発途上国、深刻な貧困に直面している国を並列に持ってきて、先進国のみならず、開発途上国、深刻な貧困に直面している国からも。

(小松良行委員) 中にはだけで大丈夫ではないですか。

(根本雅昭委員) もしくは先進国のみならず、開発途上国からもご支援いただきましたで1回切って、中には深刻な貧困に直面しているにもかかわらず国を挙げて支援していただいた、でもそうするとまたあれですね。

(尾形 武委員) これ4行から7行目までつながって読まないという意味がわからないのです。この中だけで読んでいるから。

(小松良行委員) いいのではないですか。開発途上国、中にはで、あと削除して、深刻なで読めると思うな、十分。

(村山国子委員) 先進国のみならずを、ちょっと気になったのですけれども、ばかりでなくてのほうがいいのかな。のみならず、何か差別的な感じがあるかな。

(小松良行委員) 差別的、そんなことはないね。

(渡辺敏彦委員) 俺がつくると、先進国はもちろんのことと書くものな。もっと差別的か。もちろんのことでは。

(小松良行委員) もちろんのことではもっと差別だ。普通は先進国ばかりだろうなというところで、だけれども開発途上国もだよというふうな意味合いなのだろうから、のみならずでいいと思うな。

(村山国子委員) 了解。

(小松良行委員) 僕もそれで了解なのですけれども。

(根本雅昭委員) あとは、深刻な貧困のこの国強調するのでしたら、例えば国内のさまざまな支援に

加え、深刻な貧困に直面している国を含むさまざまな国から支援していただいたことについてとしてしまうかですかね。

(鈴木正実委員) それだと、貧困が弱くなってしまうのではない。

(高木克尚委員長) 先進国という単語をなしにしますか。そのかわり、その前段、そのためには、国内外のさまざまな支援に加え。

(村山国子委員) そうしたほうがいいのかも。そうすると、スムーズにいくかも。

(高木克尚委員長) 先進国とあえて表現しないで、国内外でどうですか。

(小松良行委員) 国内外のとすれば、先進国は要らないかもしれないな。

(高木克尚委員長) では、もう一度皆様にお諮りします。

4行目から、そのためには、国内外のさまざまな支援に加え、中には深刻な貧困に直面しているにもかかわらず国を挙げて支援していただいたこと、どうですか。開発途上国とか、後発開発途上国の表現は削除してしまうという。

(小松良行委員) そのほうがいいね。

(小野京子委員) わかりやすく。いいと思います。

(村山国子委員) 何か支援しと書いて、開発途上国だ、先進国だとかで言っていることはないよな気がするから、そっちで賛成です。

(尾形 武委員) そのほうがすっきりしているね。すごく簡略的になるから。

(高木克尚委員長) 暫時休憩します。

午後 1 時 50 分 休 憩

午後 2 時 00 分 再 開

(高木克尚委員長) 委員会を再開します。

それでは、4行目から7行目まで、もう一度整理をさせていただきます。そのためには、国内のさまざまな支援に加え、先ほど国内外としましたが、この外は外し、国内のさまざまな支援に加え、先進国のみならず、開発途上国、中には深刻な貧困に直面しているにもかかわらず、以下、同じ文章で。中でもから後発開発途上国からも削除ということになります。先進国のみならず、開発途上国は生きると、それでよろしいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) 実はお持ち帰り用のもう一冊用意してあります。今、時間かけて直す手もあるのですが、皆さんの手作業で直していただいて、持ち帰りという方法もあるのですが、いかがでしょうか。

(小松良行委員) そのようにしましょう。ここで直すと。

(高木克尚委員長) よろしいですか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) ありがとうございます。

皆さん、この会議終わった後すぐお帰りになってしまいますか。10分程度いただければ、訂正してお渡しすることも可能なのですが。

(小松良行委員) お願いします。

(高木克尚委員長) では、そのように委員会終了後修正をかけ、皆さんに持ち帰り用の配付をさせていただきます。

そのほかに訂正点ございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) では、ただいま加除修正いただいた点は、今申し上げましたように、委員会終了後直ちに訂正文を配付いたしますので、ただいまの委員長報告案につきまして各会派内で確認をいただきたいと思います。

そういたしまして、その確認をする次回委員会の日程を調整していただきたいと思います。

正副委員長といたしましては、次回を、手帳を確認してください。8月23日、午前、午後、どちらでもいいのですが、いかがですか。大丈夫ですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) 午後でよろしいですか。

(小松良行委員) 1時半でいいです。

(高木克尚委員長) では、今回は8月23日木曜日、午後1時半。

そういたしまして、ただいま決定のとおり、次回委員会で委員長報告案の確認をさせていただきますので、各会派ごとに調整を図っていただき、当日ご報告をいただくことでよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) では、そのようにさせていただきます。

次に、意見交換会についてを議題といたします。

ただいまから資料を配付させていただきます。

【資料配付】

(高木克尚委員長) ただいまお配りした資料は、以前にもお配りをした文教福祉常任委員会で開催した意見交換会の実績と、今後意見交換会までに決定しなければならない項目を記載した運営要領案でございます。

運営要領をごらんいただきたいと思いますが、1の日時については、成蹊高校側の希望として、平成31年3月下旬とさせていただきます。

2の場所は、成蹊高校を想定しております。

その他さまざまな項目がありますが、中でも3の目的の中、テーマ、それから4の定員については

参加者を募集する前に決定しておかなければならない項目のために、本日はその2点について協議をいたしたいと思います。

なお、裏面の10の当日の進め方については、現時点では大まかな想定を記載しておりますので、今後、学校側の意向や意見交換会の方法、テーマなどにより、詳細を決定してまいりたいと思っております。

まず、4の定員ですが、定員を定めるためには、どのような形で意見交換会を行うかを定める必要があります。

別紙の2ページ、3ページに1回目、2回目の実施した様子の写真があります。2ページ目は、スクール形式で行われた1回目の様子です。3ページ目は、ワークショップ形式で行われた2回目の様子です。

この2回の形式の大きな違いとして、参加者全体で話し合うスクール形式に比べて、ワークショップ形式は少人数に分かれて意見を出し合うため、お一人お一人が発言する機会を多くつくれることが挙げられます。

今回成蹊高校との意見交換会につきましては、可能な限り学生、中学生あるいは高校生たちに多くの意見を出してもらうことが何より重要であると正副委員長として考えております。そのため、意見交換会の形式は、より参加者が発言する時間を多くすることが可能なワークショップ形式で実施したいと思いますが、いかがでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) では、意見交換会の実施形式については、今ご確認いただきましたように、ワークショップ形式で決定したいと思います。

なお、ワークショップのグループ分けや高校生の定員については、学校側との協議も行って、今後決定していきたいと思っております。

次に、運営要領3、目的の中のテーマについてであります。まず現時点で想定される意見交換を行う中学生、高校生について情報を整理したいと思います。

想定される中身として、参加可能な学生は成蹊中学、成蹊高校の中学2年生から高校2年生まで可能です。

部活あるいは委員会、クラス単位での参加ではなく、希望する生徒を募り、任意での参加となります。そのため、部活動や委員会活動などは不特定となります。

事前に参加する生徒たちを募るために、事前に当日のテーマを伝え、個別に考えてきてもらうことは可能であります。

以前の委員会においても意見交換会のテーマについて皆さんからご意見をいただきましたが、ただいまご説明申し上げましたように条件を踏まえ、意見交換のテーマについては、野球、ソフトボールやボランティアなどといった分野に絞って意見を聞くのではなく、そもそもオリンピック・パラリン

ピックにどの程度関心があるのか、どのようにかかわりたいと思うか、復興五輪としての本市での野球、ソフトボールの開催についてどう考えているか、もしくは福島にはもっとこうなっほしいなどとした大きなテーマについて、本音を聞くことが大事であると正副委員長として考えております。

中学生、高校生の本音を聞いた上で、その後、以前もご意見のあった学生同士の横のつながりを生かしたネットワークづくりなど、学生自身がかかわれるアイデアを出してもらうことも検討できればと思っております。

詳細なテーマについては、今後もう少し時間をかけて決定したいと思いますが、大きな枠組みとして、ただいま申し上げましたように、初めに中学生、高校生の本音を聞き出すことを目的として、日程の兼ね合いとなりますけれども、その後に学生自身がオリンピック・パラリンピックにかかわるアイデアを出してもらうこと、掘り起こしをすることを検討してまいりたいと思います。

以上のように内容を意見交換会の目標として成蹊高校側と協議を進めたいと思いますが、ただいま申し上げました進め方について、皆さんからお考えをお示しいただきたいと思っております。

ご意見のある方、お述べいただきたいと思っております。

(沢井和宏委員) まず、場所なのですけれども、場所の広さというか、まだそこまで話し合いは行っていないのだかと思うのですけれども、体育館とか、そういう広い会場でやるのか、それによってもグループ分けとか人数の関係が出てくるのかなと思ったのですけれども。

(高木克尚委員長) 目的、テーマがおおむね整理をされた上で、高校側に、成蹊側に、こういう目的で、こんな規模でと、それに見合った会場を用意していただきたいという打診になるかと思っておりますので、実はきょうこの後、正副委員長でご挨拶に上がりますので、用意できるような会場の様子はお尋ねしてこようかなとは思っております。

(沢井和宏委員) テーマなのですけれども、テーマにかかわって、いろいろアイデアを出してもらうとか何かもあると思うのですけれども、1つ私大事だと思うのは、話し合った結果、いろんな意見が出されたそういう結果がどういうふうにかかわられるのかとか、どうなっていくのかがある程度高校生に見えないと、ただ意見を言って、こちらの参考にするのももちろん目的はあるのですけれども、出された意見とか、それをどう集約して、どういうふうな発表の仕方にするのか、どういうふうに活用していくのか、そこら辺もある程度決めていかないとなかなか、例えば高校生が集まって参加しても、俺たちの意見とか、そういうのはどうかかわられていくのか、何か何にも手応えがなければ、意欲も出てこないのかななんて思うのです。何らかの形で、もちろん公表するのはあるのですけれども、それをどのように参考にしてこれからやっていくかというような、そういう見通しも必要なのかなと思うのですけれども、いかがでしょう。

(高木克尚委員長) 非常に建設的なご意見であろうかと思っております。ただ、我々も初めてですし、公開で、非公式ではありません。公開制ですから、今の中学生、高校生がどういう考えを持っているのかということをお明らかにすることがまず第一の目的かなと。ただ、公表の仕方については、慎重になら

なければならないと思いますが。ただ、出された若い人たちのご意見をどう我々が活用するかというのは、事前に想定し切れないのではないかという気持ちもあります。

(沢井和宏委員) それは、出てくる内容によってというのはあると思うのですけれども。

(高木克尚委員長) 当然当委員会として後段の大きな目標の一つでもありますから、我々がどう公式の場で公表なり提言をしていくのかというのは我々の考え方一つかなと。あと、先ほどちょっと言い忘れましたけれども、物理的に当委員会このメンバーの人数しかおりません。ワークショップ形式で行うためにやっぱり最低でも2人1組、そうすると5班ぐらいしかできませんかな。5班で、1班最大たくさんの子供たちに意見を述べる機会を与える人数というのは、そんなに多くないのかなという気はするね。広報のあり方もこれから皆さんと検討していかなければならないのですが、まずテーマをやはり掲げないと、その後の処理まで導くことは非常にちょっと難しいのかなという思いもあるので、ざっくばらんにテーマは絞り込んでいきたいなと思います。

(小松良行委員) きょうこの場でテーマに入り込んでいいですか。そのほうが何となくイメージしやすいと思って、私はきちんとテーマを、この目的の前文はこれでよいと思いますけれども、やはりイメージが伝わりやすいようなテーマをここに掲げて、お集まりいただく皆さんに、そういうことで話し合いをする、私たちの話を聞きたいと大人の人たちが言っているのだなということがイメージしやすいようにすべきだと思っており、私は、江東区でしたか、かかわろう、スポーツアンドサポート、やっぱり我々若い人たちに求めることは、まずオリンピックにかかわっていただくために自分たちがどういうことができるかなということについてを中心に、さらに話が広がっていく中で、このオリンピックレガシーというものをどういうふうにつないでいくかというふうに発展していただければ一番ありがたいと思うのですが、まずはこうした、かかわろう、スポーツアンドサポート、このままパクってしまっているのかどうかというのは話は別としましても、こういった方向のテーマの設定はいかがかというふうに思うところですが、以上です。

(村山国子委員) 特別委員会の委員長報告としてせっかくこれをつくり上げていくので、やっぱりこれの内容に沿ったテーマがいいのかなと、教育に関し、中学生、高校生を対象にということなので、せっかく提案するので、やっぱりこれに沿ったような、では何だと言われるとちょっと困るのですけれども、提案していくわけですから、そういうので意見を聞いていけばいいのかなというふうには。

(高木克尚委員長) 正副委員長としても踏み込んだテーマはきょうは準備しておりません。ただ、言えることは、今申し上げましたように、大きな枠組みとして、実際今の若い人たちはどこまでオリンピックというものに関心があるのかどうかということ、あるいは福島で野球、ソフトボールが開催されることにどういう考えを持っているのか、あとオリンピックを機に福島にどうなってほしいのか、そういうことを意見交換会で述べていただきたいなと、そのときに、ではもっと絞り込んだテーマで、こんな中身を高校生にしゃべっていただきたいのだということはこれからちょっと決めていきたい。きょうは、そこまではちょっと我々も、私としても踏み込めないではいるのですけれども、ただざっ

くり言うと、とにかく本音を聞きたいというところにまず皆さん共通の理解をいただきたいなと思うのですけれども、もしかするとがっかりするような考えを高校生から出されるかもしれませんし、物すごく前向きな意見が出されるかもしれませんが。

(鈴木正実委員) 何だか多分高校生しゃべりづらいのではないのかなと見ている。報告と同じで、オリンピックまでに何ができるか、何が期待できるのか、あなたたちの考えはというのがまず1つあって、オリンピックが実際福島で競技やった、3回試合やるのだから、1回なのだからわかりませんが、そのとき君たちが何ができるのか。そういうことを全部踏まえた上で、卒業して、大学に行って、一般社会になったときにあなたたちはこのオリンピックをどういうふうに伝えていこうと思うとか、何となく現在と過去と未来みたいな、そういう分け方の中で、例えば1つだけボランティアという言葉を選んだときに、やる前までにボランティアの体制を整える、本番のときにはバスの案内をしたり、目の不自由な人の手を引いてあげたりする、後ろの段に行けば、大学で福祉を学んで、介護の中で自分のそういう思いを役立てたいとかという、つながっていくような考え方というのがもしかすると1つはあるのかなと。ボランティアの中でも、もし間に合った子は、高校のときには環境にすごく興味があった、あるときその環境にかかわるイベントに参加して、大学に行ったときに環境を学んで、将来就職したのは竹中工務店で、環境だけをやれるようなエンジニアになっているというようなこととか、将来の夢とオリンピックとのかかわりであるとか、すごく多分階層がいろいろ出てくるのではないかなと思うのですけれども、今、当日、未来という中で、ボランティアという言葉ではどういうふうに考えるとか、あるいは国際交流どう考えるとか、何かその辺をテーブルごとに国際交流考えるところ、ボランティア考えるところとか、関心のあるワークショップを開いていくのが一番わかりやすいのかななんて思ったのですけれども。

(高木克尚委員長) 今四方からいただいたご意見は、当然これからテーマの絞り込みに関しては必要なことだと思いますので、そのような方向で皆さんとお話し合いをさせていただきたいと思いますが、きょう現在、申しわけないですけれども、具体的にこういうテーマで、こういうテーマでというのはご提示できませんことは理解をさせていただきたいと。ただ、目的とすれば、大人ではない高校生あるいは中学生たちの本音を聞き出す場面にしたいなと、こういう大きな目的を持ちたいというのが正副委員長の気持ちなのです。

(鈴木正実委員) テーマとしてという言葉として、オリンピック、私たちは何ができるというテーマで、そこから区別をしていとか、何か漠然としたテーマでよければ、そんなイメージなのかなという感じがするのですけれども。

(高木克尚委員長) 当然今出していただいたご意見の中身でこれから皆さんと一緒にテーマを決めていかなければならないと思いますので、次回も含めて、さらにご意見を賜ればと思います。

今長々と申し上げましたが、ざっくりと繰り返しますが、中学生、高校生の本音を引き出すために当委員会として意見交換会を実施するのだという方向についてご理解をいただいてよろしいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) 詳しくは、あと成蹊高校と数度、数回にわたる打ち合わせの上、皆さんにお諮りしながら、その都度確認をしていきたいと思えます。

正副委員長からは以上ですが、最後にその他として、皆さんから何かございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) では、後ほど、先ほど申し上げましたように、持ち帰り用の委員長報告案について、十数分お時間をいただいて、皆様にご配付をさせていただきますので、よろしくお願ひします。

以上で本日の東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会を閉会いたします。ご苦労さまでした。

午後2時25分 散 会

東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員長

高木 克尚